広報 かわねほんちょう 9月号 平成21年

緑のふるさと協力隊員・千葉遥加の奮闘記

風ノハルカ

Chiba Haruka volume3

「徳山の盆踊」練習に参加中。８・15にこうご期待

この原稿を書いている現在、わたしは８月15日の「徳山の盆踊」の練習に追われています。

普通の盆踊りでは、炭坑節しか踊れないわたしですが、協力隊員の慣習として笛を吹くこととなっていて、例に違わず初めて触る横笛を、おそるおそる吹いています。横笛は、腹式呼吸で力いっぱい吹かないと音が出ません。また、精一杯吹いても、きちんと音が出るかどうかは、また別問題です。口の位置が多少ずれただけで、一切音が出ないなんてこともザラにあります。同じ指遣いでも、吹く息の量によって音が変わったりするので、混乱するときもあります。

指の動かし方もなかなか覚えられなくて、苦戦しています。「ようは慣れだよ」って言われますが、いつまでたっても慣れる気がしません。

「徳山の盆踊」の練習は２日に１回実施されます。かなりひんぱんな回数ですが、それでも、理由もなく休むという人はまったくいないのです。それは、小中学生の舞い手の女の子たちもしかり。すごいことです。

練習中、女の子たちは私服の上に浴衣を羽織って舞っています。自由自在に操る扇子は、踊りの形態によって材質を変えているかのように思われるほど。彼女たちの舞う姿は、休憩時間と同一人物とは思えないほど艶やかで、ぐっと大人びて見えます。漂う色香から、将来の有望さを感じます。

わたしは、彼女らが踊っているときは、笛ではなく唄に徹します。歌詞は室町時代から変わっていないそうです。なのでその意味は分かりません。言葉が今と違いすぎて、さっぱり理解ができないのです。とりあえず、節だけ周りの人に合わせて唄っています。いつか、気力と体力と時間に余裕ができたら、この歌詞の意味を調べてみようと思います。

笛、唄、少しばかりの踊り。こうして書くと、やることはたったこれだけに見えて簡単そうなのですが、実際やってみると全然楽なことではありません。

でも、これを乗り越えることによって得られる達成感というのは、ほかでは味わえないものだと思います。この文章が世に出るとき、その達成感を存分に味わっていることを願っています。

千葉遥加（ちばはるか）
千葉県柏市出身　緑のふるさと協力隊員第16期生

緑のふるさと協力隊とは
特定非営利活動法人地球緑化センターが実施する、農山村に興味を持つ若者を、地方自治体に一年間派遣する事業。協力隊員たちは、農林畜産業など担い手が不足する第１次産業や、新しい刺激を求めている観光施設などで、隊員活動に励み、地域の活性化に貢献する。遥加さんは第16期生、川根本町３代目の隊員。

広報かわねほんちょうではお便りを募集しています。
おハガキ、ファクスなど気軽にお寄せください。FAX（56）2235　広報まで

発行：川根本町役場　編集：企画課広報情報室　住所：〒428-0313 静岡県榛原郡川根本町上長尾627　☎0547（56）2221　広報かわねほんちょうは、古紙配合率30％の再生紙を使用しています。